

2015年7月7日 掲載 輸送経済新聞

輸送状況を全て開示

第一貨物「いまどこ」発着顧客に

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）は今年度中をめどに、配達予定時間を含めた荷物の逐一の輸送状況をウェブ上で全て開示するサービス

を開始する。荷物バーコードのスキヤン情報を基にしたビッグデータの活用により、顧客にとってはこれまで以上に詳細な貨物追跡が可能になる。

新サービス名は「Delivery Service Time」の頭文字を取って「DST」。直訳すれば配達時間お知らせサービスの意味だが、単に時間のア

ナウンスにとどまらな

「残荷」も示す

ハンディターミナルで読み込んだ荷物情報を基に顧客からの問い合わせに対応する「POS（＝Parcel Online System）」を活用。①集荷時②運行便への積み込み時③配達店到着時④配達車両による持ち出し時⑤配達完了時——の計五回のスキヤンデータによる都度のきめ細かな輸送状況を、ウェブを通じて発着、両方の顧客に

逐次情報提供

「残荷」も示す

ハンディターミナルで読み込んだ荷物情報を基に顧客からの問い合わせに対応する「POS（＝Parcel Online System）」を活用。①集荷時②運行便への積み込み時③配達店到着時④配達車両による持ち出し時⑤配達完了時——の計五回のスキヤンデータによる都度のきめ細かな輸送状況を、ウェブを通じて発着、両方の顧客に

逐次情報提供

「残荷」も示す

ハンディターミナルで読み込んだ荷物情報を基に顧客からの問い合わせに対応する「POS（＝Parcel Online System）」を活用。①集荷時②運行便への積み込み時③配達店到着時④配達車両による持ち出し時⑤配達完了時——の計五回のスキヤンデータによる都度のきめ細かな輸送状況を、ウェブを通じて発着、両方の顧客に

逐次情報提供

「残荷」も示す

ハンディターミナルで読み込んだ荷物情報を基に顧客からの問い合わせに対応する「POS（＝Parcel Online System）」を活用。①集荷時②運行便への積み込み時③配達店到着時④配達車両による持ち出し時⑤配達完了時——の計五回のスキヤンデータによる都度のきめ細かな輸送状況を、ウェブを通じて発着、両方の顧客に

逐次情報提供

「残荷」も示す

一方、DSTサービスでは「いまどこ」や「いつ届く」が分かるだけでなく、例えば残荷に

より「どこで止まっている」という状況も開示される。繁忙期の荷物の集中やトラブルで残荷が発生した場合、同社にとっては不利な情報を提供するリスクも伴うが、「そこまで徹底した情報開示をしてくれるのか」と言われるレベルを追求する（武藤社長）。

詳細な貨物追跡の情報を提供し徹底的な「見える化」を進めることで、物流改善を図りたい顧客

に既存の類似サービスとの違いをアピールする。秋ごろ、まずは十数社の顧客の協力を得て実証実験を行う。実験結果や顧客の評価を踏まえてシステムを改良し、今年度中に完成させる計画。

（矢田 健一郎）